

「沿線には樹齢千年以上の大樹があります。このロゴマークは、千年という永い時間のイメージを大樹で表したものです」と、アテンダントを務める岡崎遥さんは教えてくれました。

岡崎さんは池田町の出身で、四国まんなか千年ものがたりが運行を始めて間もなく、近くを走る列車と、車内でお客さんにサービスをするアテンダントの姿を見て、「かっこいいな、私もそこで働きたい」と憧れを抱いたそ

**叶**  
 えたい夢、見つけた



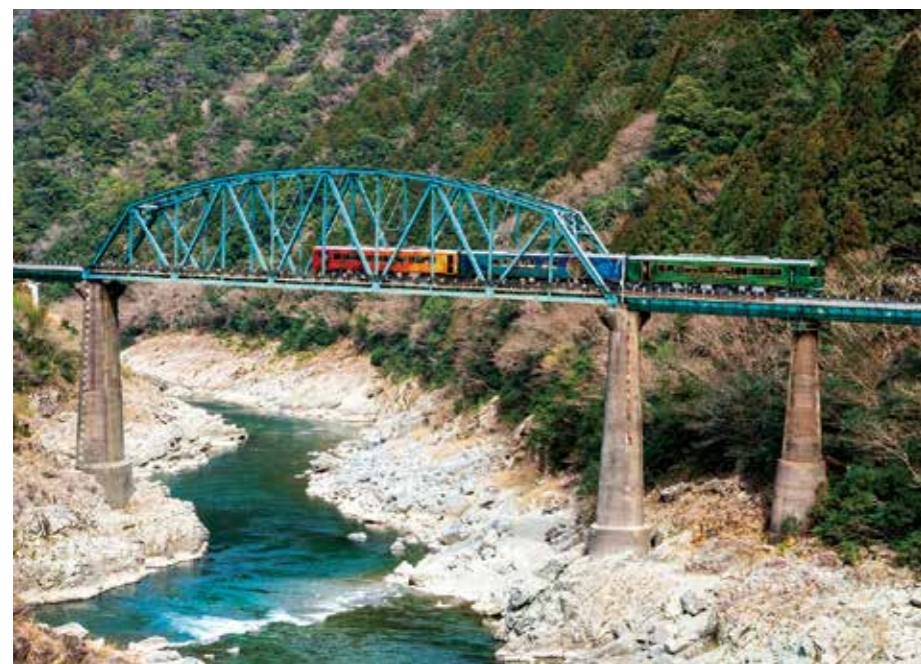
四国旅客鉄道株式会社  
 千年ものがたり企画室  
 アテンダント  
 おかざき はるか  
 岡崎 遥さん

うです。早々と翌年には夢を叶え、アテンダントとして乗車することになった岡崎さん。キラキラと笑顔が輝かせます。お客さんからは、地元の方のおもてなしが温かいね、とよく言われます。コロナ禍のために減っていたお客さんも、まん延防止等重点措置が全国的に解除となり、少しずつ戻りつつあるようです。お客さんに一番人気なのは小歩危から大歩危間の「第2吉野川橋りょう」からの眺め。「ここでは最減速。時速15kmで

走りながら眺めを楽しんでいたができます」。ここはとにかく絵になる橋で、写真愛好家からも人気のスポット。車内からの風景もやはり美しいのでしよう。これまでで印象に残っていることは、小さな子どもからメッセージカードを駅で手渡されたこと。カードには「おしごと、がんばってね」と書いてありました。お客さんからの言葉や笑顔に励まされながら、夢を叶えた岡崎さんは今日も、四国まんなか千年ものがたりに乗車します。その優しい笑顔は、春の陽差しのように輝いています。



沿線の桜の見頃に合わせてスタートした車内イベント「#さくら紀行」しつらえられたフォトブースはアテンダントが手作りしました



第2吉野川橋りょうを渡る四国まんなか千年ものがたり



大樹をデザインしたロゴマーク

特集 運行開始 5 周年

四国まんなか千年ものがたり

2017年4月1日、四国で2番目の本格的な観光列車、「四国まんなか千年ものがたり」の運行が開始されました。香川県の多度津を出発し、善通寺や金毘羅宮、そして平家の落人伝説が残る祖谷、大歩危駅まで千年を超える歴史に思いを馳せながら「おとなの遊山」を楽しめる列車です。今年、運行開始5周年を迎え、私たちの住むまちにどんな風が吹いたのかを辿ってみました。



ただいま おかえり

皆さんは、「JR完乗」という言葉を知っていますか？ 鉄道ファン、その中の「乗り鉄」と呼ばれる人の間では垂涎の言葉です。それは、JRの全線全区間、約2万kmに1回以上乗車すること。完乗までには10〜20年かかっても当たり前と言われている偉業のひとつです。

このJR完乗を成し遂げ、さらにまた、もうひとつの大記録を更新中という方をご紹介します。

千葉県にお住まいの高橋一敏さんは、JR完乗を成し遂げた真正銘の乗り鉄。全区間を完乗した後は、観光列車に興味を持つようになり、JR四国では先に運行されていた予土線を走る観光列車「伊予灘ものがたり」が気に入り、四国まんなか千年ものがたりが走る土讃線は「南風」などでおなじみの路線だったため、運行スタート時にもすぐに乗らなければ、とは思わなかったと話します。スタート時の混雑も少し落

顔を覚えられ、交流が始まりました。高橋さんは「この地域に親しみを感じるようになりました。知り合いがどんどん増えていくような感覚」と笑顔で話します。それからは、また会いたい、という思いから、3か月に1回が1か月に、2週に、毎週、という調子で順調に乗車回数を伸ばしてきました。

そして、ついに昨年の12月4日、300回乗車という大記録を打ち立てました。大歩危駅ではこれを記念する式典が行われ、地元の人もお客さんも、一緒になって、この偉業をお祝いしました。

「全国でいろいろ乗ってきたけど、自分にはこの千年ものがたりの雰囲気合っているんだと思います」と話す高橋さんは、現在もまだまだ記録更新中です。

たくさんのお土産を交換し合いながら「ただいま」、「おかえり」と笑顔を交わす、そんな温かな交流はこれからも続きます。



写真左：高橋さん（千葉県船橋市）、写真中：星川さん（愛媛県四国中央市）、写真右：亀田さん（兵庫県姫路市） ※大歩危駅にて

星川さんは乗車回数30回。車窓の風景やおもてなしに魅力を感じています。ここの温かくて親しみやすい雰囲気は、他が物足りなくなるほどとか。

亀田さんは乗車回数50回。千年ものがたりの魅力は人とのつながり。狸な会のおもてなしも他では味わえないと話します。



ぽんぽこ阿波川口駅で、おもてなし  
やましろ狸な会

「阿波川口駅周辺は観光客が楽しめるようなものはありません。そんな場所にせつかく15分も停車してくれるのなら何かおもてなしをして楽しんでもらいたい、そんな思いから、狸姿に変身して手を振っています。こんな格好が面白いのか、お客さんが笑ってくれるんですよ。喜んでくれた、それが嬉しいんです」。

た「やましろ狸な会」は、5年の間に、駅舎に狸のモニュメント、民家や商工会館に狸の壁画を描くなど、その活動はどんどん広がっています。

4月1日、阿波川口駅は愛称名を「ぽんぽこ阿波川口駅」として、狸をモチーフにした駅名標をJR四国により設置されました。



地元特産品を販売しながら観光客との交流を深めている。「LINEを交換することもありますよ」

四国まんなか千年ものがたりが阿波川口駅に停車することでスタートし



大歩危駅で、おもてなし  
JR大歩危駅活性化協議会

「私はなんもせんよ。周りのみんなが全部やってくれるけん出来るんでよ」と大歩危駅で観光客を出迎える山口さん。一人ひとりに声をかけたりお茶を振る舞ったり、周りの人をどんどん巻き込んでおもてなししています。

今はもう見かけることはありませんが、新型コロナウイルス感染拡大する以前は、外国から多くのお客さんが訪れました。



ある日やってきた韓国からのお客さん。親族7名のグループで、その中の一人、60歳くらいの男性でしたが、昔おばさんに習ったから日本語の歌が歌える、と歌い始めました。それは「満州娘」という歌で、約80年も前の古い歌でした。一人が歌い始めるとその歌を知る周りの人も歌い始め、辺り一帯では大合唱が始まったことがありました。そんな心が通じた瞬間が忘れられない、と山口さんは話します。

言葉は全然分からなくても、伝えたい気持ちと受け止めたいという気持ち、それがあつたらだいたい伝わる。そんな交流を、地域の力を合わせてこれからも続けられたらと思います。



いつも明るい笑顔で迎えてくれる山口由紀子さん。